

雜

錄

内地化學工業に對する滿洲の價值(經濟資料第 14 卷第 8 號) 中製鐵に關する沿革 (南滿洲鐵道株式會社・東亞經濟調查局發行)

マグネサイト—ドロマイト—石灰石及粘土

マグネサイト：—滿洲に於ける同鑛の發見の歴史は大正 2 年の頃、一支那人が燒熱を加ふるも石灰にならぬ石灰石を滿鐵中央試驗所に持ち來つたのに始まり之に依つて該鑛が沙崗驛附近に存在する事が發見せらるゝに至つたのであつた。爾來大石橋の東部及南東部に豊富なる鑛床の存在が認められ、更に北東に延びても尙著しく多數の鑛量を抱有する事が確め得らるゝに至つた。之れ實に大正 4-5 年の頃の事であつて、工業原料としての利用も亦従つて歴史が古くないのであるが、科學的研究の進歩と共に漸次利用の範圍を擴め、特に販路開拓の足場たるべき日本への輸出が次第に増大しつゝあり、今後その需要が一層喚起せらるゝに及べば自然大量生産設備によつて價格に適當なる調節を求むる事を得るから次第に海外的に販路にまでその方途を擴め得べき事明かである。

マグネサイト鑛床は滿鐵大石橋驛から北東に引いた一線以南及南へ 4km 餘の手心山、白虎山から北東へ引いた一線以北の間であつて、西は鐵道線路に限られ、東は蓋平川の上流に至る地域内である。即ち東西の距離凡 14km 面積約 60 km² とせられて居る。此の地方に於ける地勢は一般に丘陵性の高地であつて南西から北東に連互して居り、マグネサイト地域も亦北東に赴くに從つて丘陵高く南部及西部に從つて低く、鐵道附近に於て標高僅かに 10 m 内外の沖積地を爲して居る。地域内の埋藏量は少くとも 2 億噸あるものと信ぜられる。鑛床の最も大にして代表的なのは官馬山であつて、大石橋の南東約 5 km の個所にあり、平地を抜く事 150 m の丘陵は大部分マグネサイトより成る。地層は約 35 度南東に傾斜し、北に白き白雲岩を下低として、灰色の白雲岩によつて南を覆はれ少くとも 900 m の厚みを有する。白雲岩、片岩、粘板岩の薄層を含み、又滑石を介在して居る。化學分析上マグネサイトの不純なるものは、多く是等の混在に因るものに外ならない。大に於て官馬山に次ぐ鑛床は大嶺であつて、官馬山の北東 3 km の個所にあり、此地の特徴はマグネサイトに伴ふ多量良質の滑石が存在することであつて、マグネサイ及び滑石の何れもが白色の白雲岩の中に發見せられて居ることである。

マグネサイト鑛石は今尙販路開拓の過渡期時代にあるから、銷化搬出せらるゝ數量は比較的小量であつて、即ちマグネサイト原鑛の賣買せられたるもの大正 9 年に 5,940 噸、10 年 2,940 噸 11 年 4,510 噸 12 年 2,847 噸なることが記録せられて居る程度であつた。

然るに 14 年頃から使用上の効果が一般的に認識せらるゝに至り、14 年中の内地向輸出約 3,000 噸

を告げ、15 年中は一躍 7,000 匁を告ぐるに至つた。而して滿洲内に於て製品化せらるゝものも亦最近約 3,000 匁に上る進展振りを示すに至つて居る。目下斯業の中樞をなせる南滿鐵業株式會社は工場を大連、夏家河子及大石橋に置き、滿洲總產出高の約半數を取扱つて居る。

相場は鑛石に於て東京渡し 7 匁 15 圓、大阪渡し 13 圓内外が唱へられて居る。大連よりの諸掛りは鑛石 1 匁に 6 圓乃至 6 圓 50 錢であつて、運賃 2 圓 80 錢乃至 3 圓、積込陸揚費 3 圓 50 錢乃至 4 圓の割合である。

ドロマイト：— 同鑛區として現在原料採掘の中心をなすものは、關東州南關嶺驛北方の地であつてその既得權鑛區及び出願中のもののみで 120 萬坪の廣袤を有し、この附近の滿鐵本線は東西に走つて居るが、その北方一帯の地に亘つて居る。第 2 は南 30 里堡村落の背後にあつて、南北に走つて居る低平なる丘陵の鞍部を占め、第 3 は第 1 の北方約 1 里の地にある茶葉溝村落に近く走れる溪谷の北側海拔約 450 尺の地である。

鑛區附近一帯は下部寒武利亞紀の石灰岩より成り、石灰岩は概ね幾分の苦土分を含有し、所謂苦土質石灰石と稱すべきものである。此附近の苦土質石灰石中に屢々閃綠岩の噴出あり、接觸變質地帯に於て白色乃至灰白色の變質岩を生ぜるも此の變質岩は可溶性硅酸の苦土、礬土の増加を石灰及び揮發分の減少を通有性となし、白色なるものは鐵分を含むこと特に少量なるも、その中多量の可溶性硅酸を有し、且つ石灰及苦土の適量にして兩者の含有大差なきものはドロマイトの優良なる原料として用ひらる。鑛區は何れも閃綠岩を噴出し、幅員平均 300 尺内外の接觸變質岩を構成して居る。鑛區内白色接觸變質岩の地表下 200 尺迄の埋藏量を計算するときは 2,100 萬噸と推算せられ、約 50% が採掘せらるゝものとしても、1,000 萬噸餘の原料を有することゝなつて居る。この計算は白色變質帶が總て白色セメント材料に適するものと假定しての計算であつて、苦土質のものに至つては礦量殆んど無盡藏とせられて居る。

石灰石：— 滿洲の石灰石は内地品の優良なるものに比し、非結晶質のものが多く、純白のものが少く多くは黒乃至褐色の斑點があり、夾雜及附着の粘土分が比較的多く、苦土分の混入亦尠なからざること等が數へられて居る。產地としては洲内に於て大連灣北岸、周水子附近、金州附近及び旅順附近がある。大連灣北方に起伏する一帯の丘陵は下部寒武利亞紀に屬するものであつて、緻密なる灰白色乃至黝灰色の石灰石を產出するを以て名がある。周水子西北方一帯の丘陵は殆んど全山優良なる石灰石によつて形成せられ、海拔 400 尺に及べる豊富なる埋藏量は、總て下部寒武利亞紀層に屬する黑色泥灰質石灰石であつて現在セメント原料として採掘使用する外、生石灰焼成灰用及粗石用としての用途亦尠なからず、金州附近、夏家河子附近及營城子附近何れも下部寒武利亞紀であつて、良質の石灰石を埋藏して居る。州外に於ては遼陽城北方の張臺子驛附近に埋藏量甚だ豊富なる石灰石の產地があり、品位も頗る良好であつて炭酸石灰として 92 乃至 97% に及び其他鞍山の東方大孤山附近及安奉線火連寨及本溪湖附近に產出があつて、鞍山及本溪湖製鐵所に熔煤劑として使用せられて居り

大石橋及公主嶺附近にも産出を見て居る。

粘土:— 滿洲は耐火材料及陶磁器原料としての粘土に優良品質の産出があるが、セメント原料に適した粘土は比較的に豊富とは稱し難いのであつて州外に於ては鐵嶺附近のものを第一とし、州内に於ては周水子及大房身附近に於けるものを最も著名のものとする。周水子驛附近に於けるものは、高珪酸質なると粒子の微細なるとにより特に良質とせられ、有機物の含有少なき爲め黄土色を呈し、地下深き所は約100尺以上に及べるあり、珪酸分 74%、礬土 12%、鐵分 6%、を平均品位となして、附近の耕地粘土に珪酸分 69-74%、礬土分 14-17%、鐵分 4-6%、に及びセメント原料として充分使用し得られ、地下約 20 尺位まで採掘し得らるゝことが稱せられて居る。大房身驛附近一帯の畑地粘土亦同質であつて、珪酸分 75% を超へ、夏家河子附近に産するもの亦珪酸分 74% を超へ孰れもセメント原料として絶好の資源をなして居る。

其他金州の東方董家溝附近に産する硅石は長年の浸蝕によつて軟質となつて居り。珪酸分 85-94% となつて居るから粘土分の補助原料として絶好の原料をなし、一方パイライト焼滓に用ふる鐵鑛も貧鑛ながら州内隨所に産せられ最も多い金州地方に於て品位 45% 内外と稱せられ、南關嶺附近に産するものは 45-55% を含有する等セメント成分限定に關する重要資料も甚だ豊富である。

上述の天然資源は現在如何に利用せられて居るかと云ふこと及びこれが工業的價值如何に就いて以下に略述す。

マグネサイト工業:— マグネサイトは硬燒品としては鹽基性製鋼爐及製銅爐の壁床用及びマグネシア煉瓦として超高級耐火材料をなして居り、一般工業界の不振と共に一時需要減の傾向にあつたが最近に至り斯界の好轉に伴ひ活況を呈するに至つて居る。輕燒品としては建築材料、硝子工業、保温材料、工藝品等に用ひられ就中建築材料としては礫石そのものが超高級耐火材料たるが爲め絶對的防火力を有し且つ木材に直ちに粘着する點に多大の特長が認められて居る。リグノイドは普通家屋内の床及び側壁に用ひられ居り、用法普通コンクリートに相似せるも彈性あり塵埃を立てざる等コンクリートに優るものとして賞讃を博して居る。その外炭酸マグネシアは藥品、化粧品及ゴム工業用材料に用ひられ、硫酸マグネシアは藥品及人造絹絲材料として用途を擴め、最近に至つては飛行機用輕金屬製品、寫真用材料として金屬マグネシウム製造法が盛んに研究せられつゝある狀勢である。斯く各種のマグネシア工業が勃興し來れるに於いて、マグネサイトの需要は逐年増加の趨勢にあること勿論であつて將來に多大の期待が置かれつゝあるのである。

滿洲に於けるマグネシア工業は其の歴史の短いと關稅その他の對外輸出に幾多阻害せらる可き事情があつたのによつて、その發達が阻害せられて居た。此の關稅による對外輸出の阻害とは從來マグネサイト製品中硬燒したるものは無稅であつたが、輕燒して建築材料の利用に俟たんとするものは一種のセメント狀をなすが故に従價 30% の輸入税を課せられたる事を指す。斯くいふ次第であつたから已むなく輕燒した儘内地に無稅輸入を行ひ、東京、大阪、名古屋の同社工場に於て、更に加工した

上販路を求むると云ふ状態にあつた。従つて之が爲めに加工費として割高の工賃を支拂ひ、加工材料に高價なる内地品を用ひ直接需用地へ輸入する事が出来ない爲めに運賃其他に経費の負擔を重くする等の不利があつた。如斯マグネサイトが舗床材料及壁材料として独自の境地を開拓すべき充分の資格を有しながら使用遍に至らなかつたのは要するに價格の點に於てリノリウム、アスファルト、セメントモルターに一等を輸する關係に外ならなかつたのである。即ち價格に就て其の對照を見ればリノリウム 1 坪約 5 圓、アスファルト 1 坪約 4 圓、セメント 1 坪約 2.5 圓たるに輕燒マグネサイト加工品は 1 坪約 9 圓に上つて居たのに因る。けれ共マグネサイト製品の目的は防火建築にあつて是等の建築材料とは全然性質を異にするものであるから建築の向上と共にその需要は漸次増大すべき事は明かである。殊にマグネサイトは建築材料としては火に對する抵抗力を有する上に木材に直ちに粘着せしめ得る特徴を有するが故に今後其需要が大いに増大すべき事は當然豫想せられ得る。これ等の實狀に鑑み關東州特惠關稅の追加が實現せられた。

斯の如くにしてマグネサイトの價格が低下し今後は一般的の需要が増大するであらうから獨り滿洲に於ける工業の發展に寄與し得るに止らず内地各都市に於ける建築の防火に對し多大の貢獻を爲し國家經濟に一大福音を告げ得るものと考へられる。

ドロマイト工業：— 滿洲に於けるドロマイト工業の研究は明治41年頃當時の滿鐵建築課員によつて關東州内に豊富なる白雲石を原料として有機糊料を混ぜざる漆喰の創造を企圖せられたのに始まる。之即ち今日のドロマイト及びプラスター工業の濫觴であつて大正9年始めて硅白セメント合資會社が組織せられ南關嶺産白雲石を原料とする白色セメント、改良漆喰及ドロマイトの製造が開始せられた、爾來品質の向上と生産の増進とに向つて邁進し大正11年には大連三春町に工場を移轉して年額4萬袋の生産能力となり14年更に組織が變更せられて大連ドロマイト工業合資會社と名稱が變更せられ生産能力は年額8萬袋となり、更に10萬袋にまで達せんとして工場を改修中である。大正13年以降はドロマイト合資會社以外に同種の生産を舉ぐるものを生じ然も滿洲内に於ける需要がドロマイト工業合資會社生産の1/3内外を以て充て得る折柄、自然日本内地、朝鮮及び南北支那に販路を求むるに至り。輸出の風潮を喚ぶに至らして居る。

	白 色 セ メ ン ト	ド ロ マ イ ト No. 1	同 No. 2	プ ラ ス テ ン 白 色
諸 掛	(1 袋 125 斤入)	(100 斤入)	同	(100 磅入)
工場渡卸價	4.250	2.750	2.25	13.000
大連の諸掛	0.170	0.140	0.14	0.140
船 運 賃	0.230	0.190	0.19	0.170
輸 入 税	0.375	—	—	—
陸 揚 費	0.170	0.150	0.15	0.110
合 計	5.195	3.230	2.73	13.450
賣 價 約	6.000	3.750	3.25	18.000

滿洲内に於けるドロマイトの需要は比較的少く、ドロマイト工業合資會社生産の 1/3 内外を以て之を充て得ることは前述の通りであるがドロマイト工業はその原料が豊富なること、操業比較的簡易なることに因て他にも小規模の生産者が出現するに至つたから勢ひ販路を海外に求めざるべからざる事情となり、漸次眞價の認めらるゝと共に輸出數量を増加しつつある。而してその殆んど大部分を占めて居るドロマイト工業合資會社の輸出を見れば 14 年 4 萬 0,500 袋 324 萬斤、15 年 5 萬 1,000 袋 408 萬斤であつてその漸増傾向の大勢を窺はしめて居る。相場は工場渡し卸價と之に對する阪神方面に至る費用及び賣價を舉ぐれば大要掲表の如くである。

煉瓦工業：一（註 現在本業は滿洲に於て大小 85 餘の工場ありその製産年額約 120 萬圓に上つて居る事加之滿洲に於ける煉瓦工場の所在地、工場名、設立年月、資本金、製産品種、數量等を掲表し居れども耐火煉瓦製造所は唯大連市榮町大連窯業株式會社のみなるを以て表を省略し該會社の大略を掲載するに止む）大連窯業株式會社は 大正 14 年 7 月滿鐵が大正 2 年以來試験研究の結果成功した窯業工場の設備並に業務一切を繼承したので資本金 120 萬圓高級耐火煉瓦年額 1 萬 2,000 噸、各種硝子器年額 50 萬打の製造能力を有し、その敷地面積 1 萬 4,400 坪、主要設備は次の如くである。

工 場 別	建 物		動 力		窯	
	棟 數	坪 數	モーター	馬 力 數	本 窯	附 屬 品
耐火煉瓦工場	23	1,981	6	330	14	8
空洞硝子工場	16	1,510	14	129	3	25
其他附屬設備	14	506	2	6	2	—
計	54	3,997	22	465	19	33

滿鐵では大正 2 年工場を新設しシヤモツト煉瓦、硅石煉瓦の製造を開始し大正 5 年鞍山製鐵所熔鑪用煉瓦製造の爲め現在の規模に擴張したもので昭和 3 年 3 月現在職工日支人合計 135 人あり 15 年度販賣高 6,200 噸 21 萬 4,095 圓を示して居るがその製品種目は製鋼爐、瓦斯爐用硅石煉瓦、瓦斯レトルト、高爐、キエホラ、セメント廻轉爐、硝子熔融窯用シヤモツト煉瓦、製鋼用マグネサイト煉瓦及びクリンカー等である。

硫安工業：一 最近滿鐵は鞍山製鐵所に工費總額 1,600 萬圓を投じて硫安工場建設の計劃を進めて居る。

現在の計劃では硫安年額 7 萬噸を製造せんとするものでその製造方法は 骸炭爐瓦斯を利用してアンモニア合成法によるので今年直ちに着工し、明年一杯に竣成し昭和 5 年より製造開始の豫定である。日本に於ける硫安の消費量は平均年 45 萬噸に達しその内僅に 18-9 萬噸を生産するに過ぎない。而も一方需要方面では 毎年非常な増加を示し今後 2-3 年には 70 萬噸程に達するものと思つて居るので鞍山に於ける新工場の成績が良好であれば將來更に事業を擴張する方針で研究も各方面に亘つて行はるゝ筈である。

石炭の化學工業：— 滿洲に於ける石炭資源に就いては撫順だけでも約 10 億噸の埋藏量があり、出炭額 800 萬噸以上に及ぶ。滿洲の主要都市では既に瓦斯工場があつて骸炭とタールとが出来、又鞍山製鐵所の骸炭爐からもタールが採れ、それからベンゾール、トルオール、ナフタリンなどが採取せられるが、又タールのまゝ街路に散布するか木材防腐用に使はれて居る。併し將來タールの生産量が増加すれば染料、醫藥の原料として盛んに使はれる可きものである。現に大連の大和染料株式會社では硫化染料を造るがその原料を從來外國に仰いで居たのを近く鞍山製鐵所から採るベンゾールを用ひ又滿洲産の鹽から鹽素を造つて硫化染料の製造の第一工程から全部自家工場で造る事に勉めて居る。硫化染料製造は支那に對するとして有望な工業であるが、將來は進んでタールを原料とする各種染料の製造が滿洲に起るべきである。

更に撫順では石炭低溫乾餾が行はれ半コークスと低溫タールが採れ、同地の發電用モンド瓦斯工場では副産物として硫安が採集して居る。

撫順の石炭と本溪湖にある無煙炭とは滿洲工業の上に最も重要なものでコークスと動力とを要する化學工業が起るに至ればタールの産額増加し従つて漸次これらの工業が滿洲に勃興するに至るであらう。滿洲に於ては石炭を原料として化學工業の起ることが最も必要である。

また最近タールから消毒剤リゾールの如きものを採る研究が行はれて居るが如きは注目に値するものである。

英米錫力輸出先分擔協定成立 （昭和 3 年 9 月 12 日著在倫敦帝國大使館商務參事官松山晋二郎電報）輸出先に於ける無形の競争を避くるを目的とし、豫てより英米錫力製造業者間に交渉中なりし輸出先分擔協定案は、最近に至り妥協成立の域に達したる模様なり。協定案の内容不明なるも、米國は加奈陀其他に亘り世界輸出市場の 30 % を、英國は其 70 % を占むることとし、且英國 Central Welsh Tinplate Trade Bureau を設けて、本協定の圓滑なる運用に努むることとなるものの如し。（海外經濟事情第 27 號）

米國鋼輸出組合設立と獨逸新聞論調 （昭和 3 年 7 月 19 日附在漢堡帝國總領事來栖三郎報告）過般米國に於て Bethlehem Steel Export Corporation 及 U.S. Steel Products Co. 間に、Steel Export Association of America の組織を見たる趣にて、當時米國主要新聞は何れも其成立を報道し、中には其目的、沿革、影響等に付論評を加ふるものもありし處、是等の論調を見るに組合の設立目的を以て兩會社共同努力、殊に價格の低下によりて海外市場に於ける販路を擴大し、以て國內市場に於ける取引減退に依りて失へる所を償はむとするにありとなし、更に其の由て來る所は遠く戰時及戰後に於ける米國鐵工業の異常なる發達に存し、當時は國內經濟界好況の爲め生産高の約 90 % は國內市場に於て容易に消費し得たりと雖、其後事態は漸次惡化し、米國に於ても歐大陸同様生産過剰に苦まざるを得ざるに至れるを以て、米國當業者は先づ歐大陸鐵製品の米國輸入壓迫を企て、殊に獨逸鐵鋼業者はダムピングに依りて米國を攪亂するものなりとの先入觀よりして獨逸鐵製品輸入抑壓に力

を致し、1926 年中頃政府をして獨逸品に對し關稅附加稅を課せしめむとし、更に 1927 年初には反ダンプ法を之に適用せしめむと試みたるも、何れも成功せざりしを以て、次には金融市場に向ひ歐洲諸國鐵鋼業者に對し爾今何等の信用をも與へざる様運動し、次で歐洲に於て國際粗鋼カルテル成立するに及では、之を以て米國側に對する一大脅威と見做し、一層熱心に對抗手段を講じたるも、此諸手段も歐洲鐵鋼の米國輸入を防止するに左程有效ならざりしにより、彼等は 1927 年末東部地方鐵道會社に對し、歐洲諸國の競争に對抗し得むが爲米國製鐵鋼の輸出運賃を引下げむことを交渉し、其結果同年 12 月末より 20 %の運賃値下を見るに至りしが、當時米國側の値下理由として唱へたる點は米國に於ける賃銀の高きこと及獨逸の輸出が 1923 年より 1926 年に至る間に於て約 4 倍せるに拘らず、米國鐵鋼輸出は殆ど増加せざりしこと等なり。要するに上述の如き曲折を経て今般更に輸出組合の設立を見たる次第なるが、此組合設立は歐洲鐵鋼輸出に付最重要なる意義を有するものにして、歐洲市場は運賃及關稅の關係上之に依りて影響を受けること少しとするも、米國側が運賃上の利便を有する海外諸國、殊に南米及極東に於ては歐米兩大陸當業者間に相當辛辣なる競争を惹起し、自然價格の低下に誘致すべく、而して歐洲側は米國側に比し資本力乏しきを以て長きに亘る損失に耐ふること能はず、從て遂には是等市場の一部より驅逐せらるゝこととなり、其結果勢ひ生産制限の方策に出づるの外無かるべし。米國の此有力なる競争に對抗せむがためには、結局英國の加入に依りて國際粗鋼カルテルを鞏固ならしむるか、或は更に進で同カルテルを單に生産協定のみに止めず、販賣協定迄擴大するか、何れにせよより力強き一組織を構成することの極めて肝要なるを論じ居れり。尤も歐洲販賣組合組織問題は國際粗鋼カルテル創立當時より論議せられつゝある問題にして、獨逸側に於ては粗鋼カルテルは其處迄進展するに非れば其最終目的を達成し得ざること明なるも、主として白耳義國に於ける鐵工業集中運動の未熟なる爲其實現困難なるを遺憾とする者多きが如し。(海外經濟事情第 27 號)

タタ製鐵會社罷業妥協成立 (昭和 3 年 9 月 16 日著在カルカッタ帝國總領事村井倉松電報) 其後一時減少せる復業者再び増加の傾向ありしが、12 日に至り漸く勞資間に妥協成立、翌朝より復業する事となれり。解決條件中主なるものは、3 週間以内に復業勞働者の復業は原則として全部許容すること。職工減員は今後 1 年間の自然減少に待つこと。但し 1 年經過後の冗員淘汰は會社の自由とす。罷業期間の賃金は是を支拂はざるも、希望者に對しては 1 箇月分或は 1 箇月半分の賃金を貸與すること。賃金を年 70 萬ルピー増加すること。ボーナス制は曩に發表の通り等なり。

以上に關し甲谷陀タタ販賣部は鋼製品は、1-2 週間内に市場に出し得て是が値段は漸次下落すべきも、長期の罷業の結果ストック約 2 萬噸不足し居るに付是が充足の要あり。急激なる下落は豫期し得ずと稱し居れりと。(海外經濟事情第 29 號)

加奈陀に於ける鐵管繼手輸入稅率 (昭和 3 年 8 月 1 日附在晚香坡帝國領事福間豐吉報告) 鐵管繼手の輸入稅率は現行加奈陀關稅法附屬稅率表中、稅番第 402 (Fittings, iron or Steel conduit) の稅率即第 1 種としては英帝國內特惠稅率從價 2 割、第 2 種としては日本其他最惠國條款に依り加佛條

約所定の稅率に均霑するもの從價 2 割 7 步 5 厘、第 3 種は中間稅率(玖馬に對するもの) 從價 2 割 7 步 5 厘及第 4 種として一般稅率(米國品に對しても之を適用す) 從價 3 割にして、此外に前記各種の孰れに屬するを問はず現在一律に從價 3 步の販賣稅 (Sales Tax) を課しつつあり。(海外經濟事情第 29 號)

ルクサンプルグ經濟情況 (上半期) (8 月 1 日附在ルクサンプルグ帝國名譽領事報要領)

A. 一般狀況

1927 年中の況狀は財界の秩序の回復に主力を傾けたるも、1928 年上半期を経ても尙未だ著しき改善を見るに至らずと雖、改善の方向に進みつつあることを否む能はず。1926 年 10 月より實施せられたる白耳義法貨安定法に依りて惹起されたる疑懼は、毫も事實となりて現はるゝことなく、就中事業中止及生活費昂騰等も特に世人の注意を惹く程のこともなく過ぎたり。今より之を觀れば白貨法の安定は何等想像せられたるが如き事態を發生せしめず、却て喜ぶべき反射作用を起し、幾分市況を回復し、暗雲を一掃し、且自信力を強むるに大に與つて力ありき。

未だ生活費の低減を見ざるは事實なれども、1928 年上半期の指數に依れば多少低減を見たるが如し。

1 月	804	2 月	800
3 月	797	4 月	795
5 月	794	6 月	794

即ち 1 月は最高にして 804 を示し、爾後漸次低下し、最後の 5 月及 6 月には最底 794 を示して安定したり。然るに不幸にして此低下の勢は續かず、6 月末には更に昂騰するに至れり。

B. 工業界狀況

盧公國の主要工業たる鐵鋼業は上半期中普通の業況を示し、其製品の賣上は頗る有利に行はれたり。市況は一時的の小不況なきに非りしも、年初より一般に活氣多く、市價亦稍高値を維持したり。但し 6 月末に至り、アンヴェルス港荷役人夫の罷業に依り、著しく不況化せるは遺憾なり。此罷業は盧國の諸工場をして貨物發送を困難ならしめたるのみならず、又直に市價動搖の結果を示したり。盧國鐵鋼業の重役等は直に先見ある適宜の手段を取りたる爲、事態は著しく緩和されたり。

3 月初に起りたるエミール・メイリツシ氏の不慮の死は、盧國の製鐵業に大打撃を與へたり。同氏は國際粗鋼カルテルの社長にして同時に佛獨情報及記録委員會々長を兼ね、盧國精煉業の最優秀なる代表的人物たりしのみならず、經濟界の指導者として顯著なる功績を遺したり。

同氏に代りて國際粗鋼カルテルの社長となりたるはアルベツド・テール・ルーヂ社取締役會々長 Aloyse Meyer 氏なり。

盧國の鐵道問題は未だ其解決點を發見するに至らず。協議は尙續行中にして、今日迄の處何等決定的效果を見るに至らず。

ルクサンプルグ市に於ける商品取引所の設立は 1927 年 12 月 30 日の法律に依りて定り本年 9 月初には開場の豫定なり。(海外經濟事情第 31 號)

昭和3年7月中外國鉄輸入高

(昭和3年10月11日.鉄鐵共同組合)

輸出國	輸入港	横 濱	神 戸	大 阪	門 司	其 他	計	1 月以降 累 計
印 度		5,977	—	11,779	2,643	1,712	22,111	170,627
英 國		236	—	—	—	—	236	6,697
獨 逸		—	—	—	—	—	—	3,208
佛 國		—	—	—	—	—	—	153
白 耳 義		—	—	—	—	—	—	867
米 國		—	—	—	—	—	—	4,486
和 蘭		—	—	—	—	—	—	101
瑞 典		—	—	—	—	—	—	1,134
計		6,213	—	11,779	2,643	1,712	22,347	187,273

備 考 大藏省主税局調査の數字は單位擔なるを以て之を1擔 0.06048 吨の割合にて換算したり。

昭和3年8月中外國鉄輸入高

(昭和3年10月11日.鉄鐵共同組合)

輸出國	輸入港	横 濱	神 戸	大 阪	門 司	其 他	計	1 月以降 累 計
印 度		9,200	820	6,608	1,176	—	17,804	188,431
英 國		—	179	—	—	—	179	6,876
獨 逸		—	—	—	—	—	—	3,208
佛 國		—	26	—	—	—	26	179
白 耳 義		—	—	—	—	—	—	867
米 國		—	—	—	—	—	—	4,486
和 蘭		—	—	—	—	—	—	101
瑞 典		—	—	—	—	—	—	1,134
計		9,200	1,025	6,608	1,176	—	18,009	205,282

備 考 大藏省主税局調査の數字は單位擔なるを以て之を一擔 0.06048 吨の割合にて換算したり。

尙露國より1擔の輸入ありたるも端數につき除外す 以 上

本邦主要製鐵所に於ける鐵鋼材生産高調

(單位吨)

商工省鐵山局

種 別	8 月 分			1 月 以 降 累 計		
	昭和3年	昭和2年	比較増減	昭和3年	昭和2年	比較増減
鉄 鐵	130,330	98,977	31,353 24%	991,619	825,454	166,165 17%
普 通	142,517	128,742	13,775 10%	1,213,311	1,074,845	138,466 11%
普 通 鋼 壓 延 鋼 材	121,056	107,552	13,504 11%	1,076,939	879,820	197,119 18%
内	—	—	—	—	—	—
販 賣 向 鋼 片	3,037	5,035	△1,998 △66%	26,207	45,727	△19,520 △74%
販 賣 向 シ ー ト パ ー	327	—	327 100%	4,789	540	4,249 8%
鋼 板 厚 0.7 耗 以 下	8,067	6,573	1,494 19%	69,111	56,708	12,403 18%
其 他	19,137	19,255	△118 △1%	209,010	158,301	50,709 24%
棒 鋼	44,649	34,719	9,930 22%	357,628	289,981	67,647 19%

形	鋼	19,047	15,107	3,940 21%	163,013	132,835	30,178 19%
軌	條	15,347	17,500	△2,153 △14%	142,340	107,641	34,699 24%
ワイヤロツト		1,114	1,139	△25 △2%	18,654	16,241	2,413 13%
鋼	管	5,454	4,050	1,404 26%	44,021	32,240	11,781 27%
其	他	4,877	4,174	703 14%	42,166	39,636	2,560 6%

△印は減

銑鐵市場在庫月報 昭和3年8月31日現在 三菱商事株式會社金屬部

市場 持主別	東京	横濱	名古屋	大阪	神戸	門司	長崎	室蘭	釜石	兼二浦	大連	其他	合計	前月比較	前年同月
生産筋	3,357	3,121	2,328	7,826	5,677		16,567	3,776	17,276		26,906	172	87,006	+564	89,411
問屋筋	2,307		2,880	17,050	13,800	655					590		23,532	-3,341	28,392
消費筋	11,139		1,660	50	11,360	4,044	510				710		43,423	+1,180	64,495
合計	19,924		7,068	50,086	10,886		16,567	3,776	17,276		28,206	172	153,961	-1,597	182,298
前月比較	-3,699		-896	-3,030	+2,742		+3,628	-308	-3,291		+3,025	+142			

銑鐵市場在庫品種別月報 昭和3年8月31日現在 三菱商事株式會社金屬部

品 種	京濱	名古屋	阪神	九州	滿鮮	北海道	其他	合計	前月比較
兼二浦	4,997	1,460	10,400	5,659	17,651		10	40,177	-2,665
釜石	2,097	250	770				3,776	6,893	+747
輪西	4,104	2,720	4,900	200		16,567		28,491	+2,127
鞍山	1,320	380	6,890	710	22,652		100	32,062	-2,757
本溪湖	1,650	998	9,326	548	4,519		62	17,103	+1,061
淺野銑	3,121							3,121	-289
揚子銑			100					100	0
Tata	500		5,800	160				6,460	-1,655
Burn	1,800	300	7,380	2,630	80			12,180	+1,190
Bengal	210	550	2,300	240	20			3,320	-220
Cleveland	75			50				125	+40
Hematite	50		620					670	+180
Swedish			100					100	+50
Luxembourg				84				84	-16
メイソール				350				350	+100
大陸銑				250				250	-150
雜		410	1,500	15	550			2,475	+660
合計	19,924	7,068	50,086	10,886	45,482	16,567	3,948	158,961	
前月比較	-3,599	-806	-3,030	3,742	-266	+3,628	-166	-1,597	

